

釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

お ん                      ね                      な い

# 月刊 温根内 通信

—— 2021 年 11 月号 No.302

11 月 15 日 (月) 発行 ——



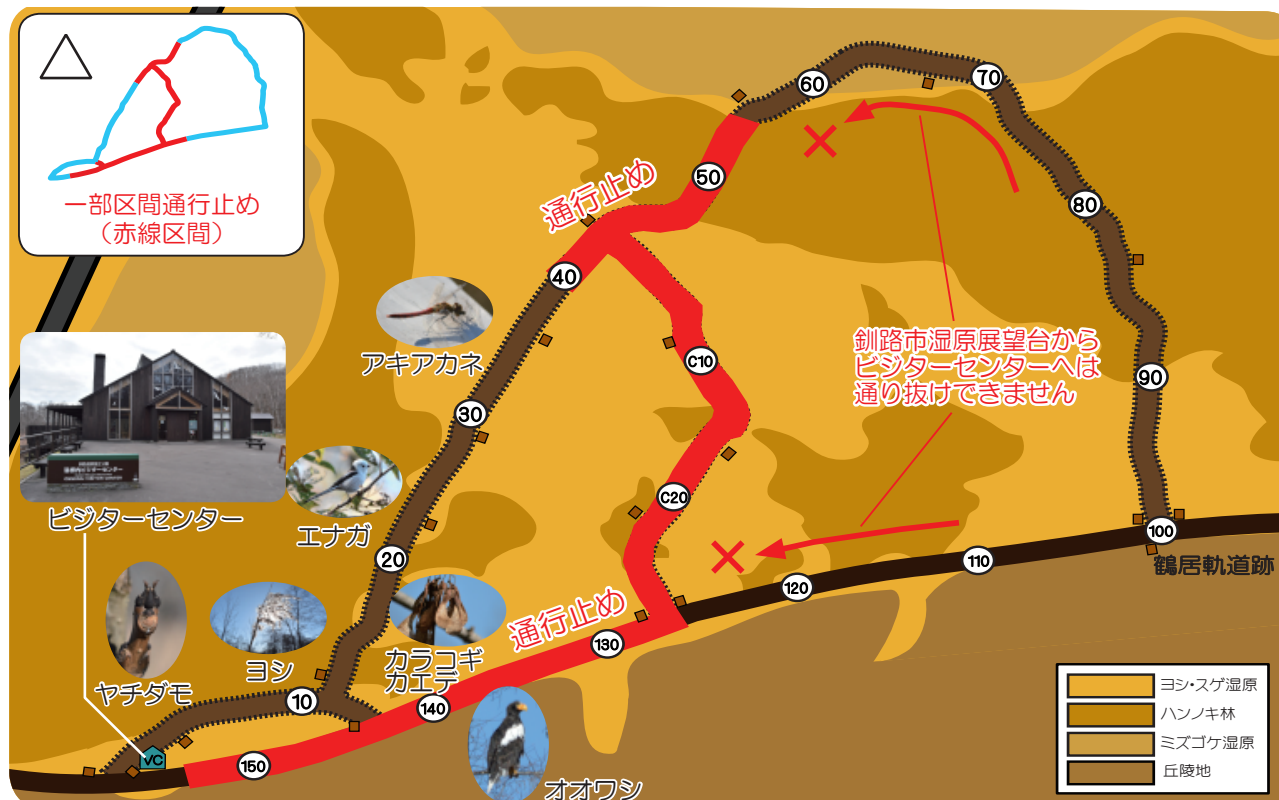
## 鶴の一声 湿原に響く

「ク・ク・ル…!」

突然、つんざくほどの鳴声が響き渡ります。そうかと思うと、2羽のタンチョウが目の前を横切っていきました。普段見慣れていても、翼を広げたこの姿にはいつも圧倒されます。花の時期も終わってどこか寂しくなった湿原に、タンチョウの声と姿は際立ちを増すようです。

釧路湿原にももうすぐ、初雪の季節がやってきます。

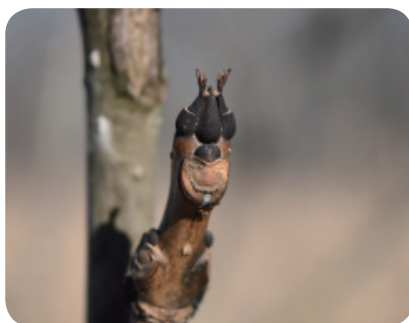
☆☆☆ 温根内木道周辺で見られた自然（10/15～11/14） ☆☆☆



【ヨシ（実）】

イネ科 葦・葎など

穂が風に揺れ、湿原に哀愁を漂わせます。これから冬まで長い時間をかけて種子を飛ばします。



【ヤチダモ（冬芽）】

モクセイ科 谷地榊

木道の入口で観察できます。見る角度や個体によって少しずつ形が違い、複雑な造形が楽しめます。



【カラコギカエデ（実）】

ムクロジ科 鹿子木楓

寂しくなった枝に実が残っています。風に乗れやすくなるため種皮の一部が翼になっています。



【アキアカネ】

トンボ科 秋菰

天気の良い日であればまだトンボが見られます。捕まえてみるとハエを捕食中のアキアカネでした。



【クジャクチョウ】

タテハチョウ科 孔雀蝶

成虫のまま越冬するチョウの仲間。館内の窓で見つけましたが、越冬場所を探していたようです。

もうすぐ見られるかも！



2019年12月8日撮影

【雪景色の湿原】そろそろ釧路地方でも初雪が降り雪化粧します。



## ☆☆☆ 温根内木道周辺で見られた野鳥（10/15～11/14） ☆☆☆

冬が近づき、野鳥たちのメンバーも様変わりしてきました。夏までのような賑やかさはなくなりましたが、この時期ならではの野鳥も見られます。そして温根内にもついにオオワシがやって来ました。これから厳しい冬を乗り越えるため、野鳥たちのドラマは続いています。



【オオワシ】 冬鳥

タカ科 大鷲

カラマツの枝に止まっていた。冬の使者とも呼ばれ、風格ある姿はいつ見ても感動します。



【スズメ】 留鳥

スズメ科 雀

ビジターセンターの屋根で発見。どこにでもいそうですが、温根内で見かけるのはきわめて稀です。



【エナガ】 留鳥

エナガ科 柄長

冬に注目が集まる本種ですが、1年中見ることができます。鳴声を聞こえたら探してみましょう。

### ○温根内木道周辺で確認された鳥 一覧表（10/15～11/14）

| 鳥（和名は日本鳥類目録第7版の順） | 10 | チュウヒ    | 20 | ヒガラ    | 30 | ノゴマ     |
|-------------------|----|---------|----|--------|----|---------|
| 1 ヒシクイ            | 11 | コゲラ     | 21 | シジュウカラ | 31 | スズメ     |
| 2 オオハクチョウ         | 12 | オオアカゲラ  | 22 | ヒバリ    | 32 | セグロセキレイ |
| 3 タンチョウ           | 13 | アカゲラ    | 23 | ヒヨドリ   | 33 | タヒバリ    |
| 4 タシギ             | 14 | クマゲラ    | 24 | ウグイス   | 34 | カワラヒワ   |
| 5 トビ              | 15 | モズ      | 25 | エナガ    | 35 | マヒワ     |
| 6 オジロワシ           | 16 | カケス     | 26 | ゴジュウカラ | 36 | ベニマシコ   |
| 7 オオワシ            | 17 | ハシボソガラス | 27 | キバシリ   | 37 | アオジ     |
| 8 ハイタカ            | 18 | ハシブトガラス | 28 | ミソサザイ  | 38 | オオジュリン  |
| 9 ノスリ             | 19 | ハシブトガラ  | 29 | ツグミ    |    |         |

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

## ☆☆☆☆ 自然ふれあい行事が開催されました ☆☆☆☆

○「秋の紅葉を見に行こう」10月17日 参加者：10名 講師：大山重治（森林インストラクター）・藤原伸也（VC）

秋の深まったこの日、鶴居軌道跡の丘陵地を中心に色づく木々の葉を愛でつつ、それぞれの樹木の特徴や巧みな生存方法を学びながら散策する会を行いました。ふれあい行事の開催は実に2ヶ月ぶりとなりました（！）。講師は森林インストラクターの大山氏にお願いしました。大山氏からはそもそも紅葉とはどういう現象なのかという解説から始まり、赤く色づいたヤマモミジの前ではその葉の特徴と、類似した他の種との違いを説明いただきました。



大山氏には紅葉に関してだけではなく、木々について実やその散布方法



についても紹介してくれました。対になってついているカラコギカエデのプロペラ状の種子は、時期が経ち単独に分かれることでうまく回転し、風に乗って散布できるということを、実物を使って参加者にも体験してもらいました。このほかにも、ミズナラ、ツルアジサイ、サワシバなどの木々が紅葉の見頃を迎えており、講師の興味深いお話とともにあっという間に楽しい時間は過ぎていきました。

○「初冬の植物を見に行こう」11月14日 参加者：7名 講師：加藤ゆき恵（釧路市立博物館）

厳しい冬を迎えつつある釧路湿原。この冬を植物たちはどう乗り越え、次につなげようとしているのか、その巧みな戦略を探る初冬の観察会を行いました。講師は釧路市立博物館学芸員の加藤氏にお願いしました。加藤氏からはさっそく館内で、別地点で採取したガマの果穂を見せていただき、その綿毛を伴った種子の多さと迫力に参加者は驚嘆していました。その後散策を開始し、葉を落とした木々の実や冬芽を観察しました。わずかに残ったサワシバの実は、風にうまく乗るための種子の構造が見られ、一方、ツルウメモドキ



などは目立つ色で鳥たちを引きつけ

て、種子を散布する工夫がよくわかりました。湿原内の散策では水中からタヌキモを取り出し、プランクトンを捕らえる捕虫囊<sup>ほちゅうのう</sup>と呼ばれる器官と、越冬する準備を始めた殖芽<sup>しよくが</sup>（越冬芽）も観察することができました。参加者からは「これは解説されなきゃわからない!」という声も聞かれました。何もなような湿原にも、よく見ると次世代へつなぐための植物の懸命な営みがあることが理解できた1日となりました。（※この行事では環境省ほかの関係者に了承を得て、事前に安全を確認した上で規制中のエリアを散策しました。）

☆☆☆ イベントのご案内（12月）事前の申し込みが必要です ☆☆☆

新型コロナウイルスの感染状況により行事自体が中止になる可能性があります。事前に各施設へご確認ください。

○温根内ビジターセンター ⇒お申し込み ☎ 0154-65-2323

♪ 湿原の「かたち」を見て歩こう

〔日時〕12月5日（日）10:00～12:00

〔定員〕10名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔場所〕温根内ビジターセンター

花や葉が枯れ落ち、遠くまで見渡せるこの時期。普段注目しない湿原周辺の「かたち」にスポットを当てて散策します。



↑ 昨年の様子 →



○塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み ☎ 015-487-3003

♪ シマエナガフィギュアを作ろう

〔日時〕12月4日（土）13:00～15:00

〔定員〕10名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕100円（材料費）

〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

♪ 塘路フィールドウォッチング ～初冬編～

〔日時〕12月18日（土）10:00～12:00

〔定員〕10名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

～日の入り時間にご注意を～

季節は初冬を迎え、道東地方は日の入り時間が早くなってきております。閉館時間の午後4時頃にはかなり暗くなりますので、余裕をもった散策をお楽しみください。



.....  
月刊 温根内通信 No. 302

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel：0154-65-2323 Fax：0154-65-2185

E-mail：ovc@hokkai.or.jp

ホームページ：http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/

Facebook：温根内ビジターセンター フェイスブック

開館時間：9:00～16:00（4月～10月は17:00まで）

休館日：毎週火曜日（12/29～1/3は休館）入館無料  
.....